

第10回アセアン+3経済閣僚会合共同声明(仮訳)

2007年8月25日、フィリピン・マカティ

1. アセアン経済閣僚及び中国、日本、韓国の経済閣僚は、第10回経済閣僚会合を2007年8月25日にフィリピン・マカティにて開催。フィリピン・ピーターファビラ貿易産業長官と、中国・ハクキライ商務省長官、日本・甘利明経済産業大臣、韓国・チョテヨル通商交渉調整官が共同議長を務めた。
2. 閣僚は、グローバルな経済の状況とアセアン及び北東アジアにおける昨今の経済発展の状況について意見交換を行った。閣僚は、地域における経済統合の進捗を留意。特にアセアン、中国、日本、韓国間での貿易量が2005年の3,150億米ドルから2006年の3,540億米ドルに12.39%増加したことを留意。閣僚は、貿易と投資を促進する手段としての地域経済統合を継続する重要性を再確認。

経済協力案件

3. 閣僚は、経済協力案件の進捗に留意。これらの案件は、IT、中小企業、標準・規格、環境、物流の広い範囲を対象としている。閣僚は、中国が提案した電子商取引と中小企業開発の2つの新しい案件を支持。

地域協力の向上

4. 閣僚は、東アジアスタディー・グループ(EASG)、特に東アジアシンクタンク・ネットワーク(NEAT)と東アジアビジネス・カウンシル(EABC)が提言した様々な短期・中期・長期の対応策を含む過去9年間の「アセアン+3協力(APT)」で達成された着実な進捗に留意。
5. 閣僚は、「第10回アセアン+3サミット」にて開始されたEAFTAフェイズⅡ研究のフォローアップ作業に留意。アセアン経済閣僚は、東アジアをカバーする形で更なる拡大を図るため、+1のFTAの締結を重点化する必要性を再確認。同時に、閣僚は高級事務レベルに、専門家共同グループ(Joint Expert Group)の提言を検討するよう指示。

東アジア協力に関する第2共同声明

6. 閣僚は、1997年から続いている東アジア協力を強化する「東アジア協力に関する第2共同声明」と「作業計画」の草稿の進捗に留意。同声明と計画は、2007年11月にシンガポールで開催される第11回アセアン+3サミットで発出予定。

世界貿易機関(WTO)

7. 閣僚はドーハ・ラウンドの現状、特に7月のジュネーブでの交渉の進展について意見交換。
8. 閣僚は、ドーハ・ラウンドを本年中に妥結するため、9月3日から開始するジュネーブでのマルチの交渉プロセスを加速化すると切迫感を共有。これに関連し、閣僚は、アセアン+3として、交渉議長、とりわけ農業議長及び NAMA 議長、並びに WTO 事務局長が、これからの重要な数ヶ月で、野心的かつバランスの取れた成果に関するコンセンサスを構築しようとする努力を強く支持する旨再確認。このため、閣僚は、他の WTO 加盟国と緊密に連携し、2007年9月から予定される集中的な交渉に積極的に関与。
9. 自らの取り組みとして、アセアン+3の閣僚は、意味ある成功裡の交渉妥結を確かにするために引き続き貢献する用意がある。閣僚は7月17日に出された農業、NAMAのモダリティに関する議長テキストに基づく議論を一層加速し、議長が改定議長テキストを迅速に発出できるようにすることを合意。

アジア太平洋経済協力(APEC)

10. 閣僚は、2007年7月2-6日のオーストラリア、ケアンズで開催された APEC 貿易担当大臣会合の成果に留意。

アジア欧州会合(ASEM)

11. 閣僚は、ASEMの最近の進捗に留意。閣僚は、10月29日から11月1日に中国のチンタオ(青島)で開催される次回のASEM中小企業大臣会合及び貿易投資フェアを歓迎。閣僚は、インドネシアが2008年の経済大臣会合を主催することに留意。

アセアン+3サミットへの準備

12. 閣僚は、シンガポールが進めている、同国で2007年11月に開催されるアセアン+3サミットに向けた準備について留意。
